

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193400054		
法人名	社会福祉法人 和光会		
事業所名	ファミリーケア本巣 うぐいす庵		
所在地	岐阜県本巣市三橋鶴舞98		
自己評価作成日	平成28年1月22日	評価結果市町村受理日	平成28年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiyokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_021_kani=true&amp;JiyosyoCd=2193400054-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=021">http://www.kaiyokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_021_kani=true&amp;JiyosyoCd=2193400054-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=021</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成28年3月23日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

小規模多機能型居宅介護の特徴である通い、泊り、訪問の柔軟な介護を組み合わせ、「出来る限り自宅で暮らしたい」という利用者の希望に沿ったサービスを過不足無く提供いたします。又、併設するグループホームと連携し行事等を行い、日常的な交流を通じてサービスの垣根を越えた馴染みの関係づくりを行っています。それにより、グループホームへ入所しなければならなかった場合でも抵抗感少なく入居する事が可能となり、安心して住み慣れた市域での生活を継続する事が出来ます。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、併設のグループホームと連携を図りながら、開設して2年が経過しようとしている。管理者は職員と共に、常に利用者を地域の中での在宅生活者として暮らしていくことを基本とし、在宅での暮らしに何が必要かを利用者と共に考え、日ごろの支援を行っている。母体の法人から学ぶ機会も多く、医療と福祉が一体となり、地域に貢献することも大きな目標として掲げている。職員の育成、地域力を活かしながら利用者、家族を熱い思いで支援している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を掲示し、毎日の朝礼の際に参加職員全員で唱和している。又、名札の裏に理念カードを携帯し、いつでも見直す事が出来る様にしている。	法人の理念が掲示され朝礼で唱和しているが、事業所としての「住み慣れた自宅で、可能な限り暮らし続けることができるようにサービスの提供」の理念もあり、日常支援の中で管理者が意識して、職員全員で常に振り返りを行い実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設全体で自治会に加入しており、隣接した公園にゴミがあれば拾ったり、不審な様子があれば警察に通報するなど、地域の環境改善に参加している。地域の小学校の児童と交流する機会が年に数回あるが、今年度は高校生との交流もできた。	公園のごみ拾いや、不審者を警察に届けるなど、地域の環境改善に協力している。以前、公園に街灯設置を働きかけ実現した。昨年は高校生のハンドマッサージのボランティアを受け入れ、利用者に好評であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を2カ月に1回開催し、日々の認知症ケアの取り組みについて紹介し、認知症になっても安心して暮らせる資源である事を啓蒙している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動状況報告や事例報告、行事等日常生活の様子を写真を見せながら事業の取り組みを伝え、話し合う機会を設けている。	運営協議会は併設のグループホームと合同で開催し、学校長、警察署、医師の参加もあり、地域の情報や事例検討を行い、出席者の積極的な意見交換が行われている。最近では、関心の大きい成年後見制度の学習の場としても活用している。	出席者も多く、活発な運営推進会議が開催されており、家族にも呼びかけが行われているが、参加が少ない。家族のより多い参加に繋がる工夫に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険関係の申請書類等の提出の際に訪問した際に、担当職員と近況報告をしたり、毎月初めには利用状況をメールにて報告している。又、運営推進会議の構成要員として参加を依頼し、事業所の現状報告や、事業運営上の問題点などを相談し、話し合う機会を設けている。	行政担当者が運営推進会議に参加し、事業所は、行政主催の研修会に参加するなどして、双方の関係づくりに努めている。介護保険制度に関わる相談や、困難事例等に助言を得て運営に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内外での研修に参加し、職員が理解できる機会を設け、日常の業務で実践している。	職員は、身体拘束についての外部・内部研修会に積極的に参加をしている。日ごろの支援の中でも、管理者は常に拘束の弊害について全職員で話し合いを重ね、身体拘束をしない支援を実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外での研修に参加し、職員が理解できる機会を設け、日常の業務で実践している。又、も虐待となりうる介護方法を家族が行っている場合には、指摘するなど虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外での研修に参加し、職員が理解できる機会を設けている。又、運営推進会議の構成メンバーに人権擁護委員を入れて、いつでも活用できるような体制をとっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事故の有無や利用方法等、利用前に訪問し契約者が理解・納得できるように説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に1名の利用者家族を招き、家族からの言葉という時間を設け、自由な意見を参加者や事業者に伝える機会を設けているが、実際に参加される方が少ない。日常的には送迎や訪問の際に、家族からの要望を伺う事となっている。	利用者の送迎時や家族の来所時、月1回の訪問時等の機会をとらえて、利用者、家族の意見や要望を聞く姿勢がある。利用者が地域で暮らすことを基本とした支援を行い、利用者、家族の意向や希望を聞きながら、在宅生活の継続支援を実践している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の朝礼時や月に1回のミーティングを職員の発言できる時間とし、意見を集い、内容次第で改善を行っている。日常的に職員が相談しやすい環境になっている。	ミーティングや申し送り時、日常の支援の中で職員が意見を出し易い環境にある。管理者は常に利用者の情報を全職員で共有し、職員が安心して利用者寄り添える支援を実践している。職員の異動に関しても意見を聞く姿勢がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で定められた就業規則に沿って、人事就業の管理を行っている。次月の希望する休日を聞き、職員が自分の用事に使える時間を確保している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員が個々に目標を設定しチャレンジシートを作成し、それに基づいて業務を行い、それに沿った研修を受講できるような仕組みを構築している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月に1回、グループ内の同業者と会議を行う機会を設け情報の共有や、書類の統一などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用の前に自宅に訪問し、アセスメントを聞き取る際に、直接本人から話を聞き、不安や主訴を把握できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用の前に自宅に訪問し、契約やアセスメントを聞き取る際に、直接家族から話を聞き、不安や主訴を把握できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回の相談の際に、何が必要かを聞き取り、適切なサービスが何かを見極め、アドバイスしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	汁物の調理、食器の洗浄や洗濯物を畳むなどの作業を行ってもらっている。又、昔の話を聞いたりして本人の生きてきた時代への理解や、個性を發揮できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日々の様子を知らせる連絡帳や、うぐいす通信を作成し、家族へ配布を行い利用の状況を伝え、本人の情報を共有している。送迎時など家族の協力を得たり、相談を受けたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	介護が必要になっても施設に入所するのではなく、生活してきた地域に住みながら、通い、泊り、訪問のサービスを利用する事で、今までの人や場所との関係性を崩すことなく暮らし続ける事が出来る支援を行っている。又、認知症の進行により在宅生活が困難になった場合は、通い慣れた併設のGHを紹介し、本人の負担が無い様に配慮し、ケアの継続が出来るようにしている。	併設のグループホームと行き来が自由に行われ、利用者と交流がある。グループホームに異動した職員もおり、利用者との関係が継続されている。地域の商店街や喫茶店等も利用できるように支援し、継続につながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	地域に近い事もあり、同じ地域の利用者が同じ日に利用できるように配慮し、関わりが深まる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院され利用が出来なくなった方に対して、入院先の病院へ面会に行き、今後の方向性を家族にアドバイスできるように相談にのっている。又、認知症の進行により在宅生活が困難になった場合は、通い慣れた併設のGHを紹介し、本人の負担が無い様に配慮し、ケアの継続が出来るようにしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや要望を把握できるように、アセスメントやサービス利用時に十分に話を聞き、家族にも月に1度は自宅に伺い、本人の意向などを伝えて、情報を共有している。意向が伝えられない方には客観的な状況判断を行い、本人が自分らしく生活できるように努めている。	利用時のアセスメントをはじめ、日々の支援の中での気づきを職員間で共有し、利用者の思いや意向が反映される支援に努めている。送迎時や家族の来訪時に、本人の代弁者として利用者の思いを聞き、支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族に今までの生活してきた様子を、面接時のアセスメントやサービス利用時に聞き、把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方や心身の状態の変化、日常の気づきについては、連絡帳で家族に報告している。又、送迎時、来所時に自宅での生活の様子を確認している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回はスタッフカンファレンスを実施し、利用状況の確認と反省を行い、介護計画に反映できるようにしている。	担当者が利用者の日頃の状況を把握し、サービス担当者会議を利用者の自宅で開催し、利用者、家族の思いや意向を反映した介護計画を全員で作成している。モニタリングも毎月行われ、状況に応じて柔軟な見直しもある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者ごとに利用時の様子を介護記録に記載し、カンファレンス等で参考にし、介護計画に活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	台風の接近による被災の可能性が高い場合や家族の用事など介護力が低下している状況におかれた場合に、緊急での宿泊を提案したり、独り暮らし高齢者の緊急宿泊や生活全般の訪問支援など多様な状況でのニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生児童委員や社会福祉協議会を交え、地域包括支援センターと協働し、地域ケア会議を開催し、困難事例を検討するなどの支援を行った。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と連絡を取り、介護計画への助言を求めると共に関係を築いている。又、利用時の定期受診の送迎を実施するなど、主治医との関係を保てるように支援している。	かかりつけ医は、家族・利用者が選択し継続している。受診は家族が行うことを基本としているが、定期受診の送迎や緊急時は柔軟に対応している。歯科訪問診療も可能になった。看護師が常駐し緊急時の対応もできる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は薬の管理など医療面全般を管理監督しており、家族へのアドバイスも実施している。又、介護職員は日常的に体調の変化や違いに気づいた場合は、直ちに看護師へ相談し、対応の指示を受けるように連携システムを構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には病院へ利用者の情報提供を行い、安心して治療が出来るように支援している。又、入院中はスムーズな在宅復帰が出来るように、面会や医療相談員との連絡を取るなどして、リアルタイムな情報の把握に努める。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	併設するグループホームと合同での看取りの研修を行い、職員の看取りに対する知識や技術の向上を図り、今後起こりうる状況に対応出来るように準備をしている。又、法人で定めている看取りの指針を順守して対応する。	看取りの事例はないが、利用開始時に「急変時における医療(延命)処置の確認書」を提示し、同意を得ている。併設のグループホームと合同で研修を行い、看取り対応に備える準備はある。	母体が医療法人であり、看取りに関しての指導は十分に可能である。今後は事業所としての具体的な対応について指針を整え、利用者にとって最期までの安心な支援に期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	発生時に落ち着いて実践できるように、マニュアルを基に研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の初期消火競技会への参加と年2回、防災訓練を行い、初期消火、通報、避難誘導訓練を実施している。又、法人が開催する防災会議に参加し法人内での連携も深めている。地域には運営推進会議で災害時に協力できる関係づくりを行っている。突発的な訓練として防災の日にシェイクアウトを実施。	年2回防災訓練を実施している。また、地域の団体対象の参加を募った北方消防署内の「初期消火競技大会」の参加や、防災の日、県主催の地震防災の訓練も実施している。法人内での防災会議の参加もある。	法人や北方消防署の参加による事業所での訓練は実施されている。今後は地域の防災訓練に参加し、地域との防災連携に期待したい。事業所で必要な備蓄の確保も期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室には全て内側からかける事が出来る施錠が設置されており、プライバシーを確保できるようにしている。又、法人内には接遇委員会が設けられ、定期的なキャンペーンや研修を実施し、接遇の向上を図っている。	毎月、標語を作り、キャンペーンとしてケアの中で実践している。価値観も個人差があり、利用者の価値観を尊重し、職員の接遇や服装、言葉遣いも大切にしている。職員全員が居室のマスターキーを持つ対応で、各居室に施錠ができ、個々のプライバシーを確保している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いを伺いながらレクリエーションや行事のメニューを決めている。又、本人が判断できるような言葉掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴時間や送迎時間等を利用者のニーズに沿う様に実施している。又、本人の気分が乗らない場合や決められた事に関しては希望に沿う様に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月に1～2回程度、整容レクリエーションと称し化粧を実施している。化粧やおしゃれをして利用される方へ、それを褒めるなどの声掛けで支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を実施し、苦手なメニューは代替えの物を提供している。昼食事は汁物を利用者が中心に調理している。調理レクリエーションではおやつ作りや切菜等、餅を丸める等の作業を積極的に行ってもらっている。	嗜好調査は年2回行い、栄養面にも配慮がある。昼食の汁物は利用者と共に作り、配食の中にも食事の工夫がある。また、利用者と共に作業するおやつ作りは食に関するコミュニケーションの場となっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士がたてた献立に従い健康に配慮した食事を、個別に嗜好、既往歴、能力に合わせ提供している。又、水分量を記録し水分摂取量を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、口腔内の観察を行い口腔内の健康を管理している。その際も出来るだけ自分で実施出来るように支援している。		

岐阜県 ファミリーケア本巣うぐいす庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	アセスメントや利用時の観察を行い、能力の把握を行った上、出来るだけ自分で出来るように支援を行う。又、その際は自尊心に配慮した声掛けなどの対応を行う。	利用者の状態を職員全員が把握し、利用者一人ひとりに合った排泄支援が行われ、利用者の精神的負担に配慮した無理のない支援が、さりげなく行われている。在宅での排泄支援を家族とも話し合いを重ね、連携した支援につなげている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を使用し排泄の間隔を把握すると共に、水分量の記録を参考に排便の状況を確認する。便秘時には水分の増量、運動の実施や薬の服用を検討するなどの対応を行う。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の勤務状況によるが、基本的には利用者の要望に沿った回数、時間で実施している。	入浴は毎日利用者の希望に添って入浴することができる。基本は個室であるが、併設のグループホームにある機械浴も利用でき、利用者は安全に入浴を楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	アセスメントにより得た生活リズムに配慮し、休憩時間や就寝時間を要望に合わせて設定し、安眠できるように環境面でも配慮を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局で配布される薬の内容書きをカルテに保管し現状を把握すると共に、変更があれば家族等から情報を得、職員がリアルタイムで共有できるように申し送り表に記載し周知している。又、服薬の際は確認を本人と名前と時間を確認し、誤薬を防止している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントにより得た生活歴や職業、趣味の情報を参考に、レクリエーションや行事での役割、メニューを提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	訪問サービスでの支援にて散歩程度の外出支援を行った。通いや泊りにおいては公園や寺社、道の駅など本人の要望に沿って外出している。	利用者の状況により、生活用品の買いものや希望により馴染みの喫茶店に立ち寄っている。隣接の公園へ、天候や利用者の体調を考慮した外出が行われている。行事として花見や紅葉、道の駅等の外出も行っている。	

岐阜県 ファミリーケア本巣うぐいす庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を自己管理できている方には小遣い程度所持して頂いている。外出レクリエーションの際に希望があれば、自力で購入できるような支援を行う。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手作り年賀状を家族等に宛てて作成した。レクリエーションでは自分で文字を書く事を積極的に行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	黄色を基調にした内装で温かみのある空間にしている。個室毎に扉の手すりの色を替え、手すりと壁を同色にして間違えない様に工夫している。又、利き腕に配慮し専用化したトイレを設置している。	全体が暖かみのある色調で、大きなソファはゆったりした雰囲気を利用者に与えている。トイレも右使い用、左使い用があり、利用者が安心して自立に向けて動ける配慮が行き届いている。水槽や壁掛けにも工夫がみられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置きリラックスできる場所を設けている。又、グループホームと共有であるが、大勢の場から離れた玄関にも椅子を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド、クローゼットは備え付けであるが、自分の使い慣れた物品を持ち込む事ができる。	居室はベッド、クローゼットが備え付けられ、泊り時には、馴染みのある着替えの衣類や時計などが持ち込まれている。テレビも希望に添った貸し出しが行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面台に手すりが設置されており、トイレはセンサーで照明が付き、自動で流す機能を装備している。		